

私たち TC にできること

健口から健幸へ

かわの歯科口腔クリニック

池田 智子

【TC マスターカレッジを受講するきっかけ】

私が TC というものを知ったのが約5年前。前の歯科医院に勤めている時に、別のセミナーで鈴木先生のお話を聞いたのがきっかけだ。

セミナーを受けて、あの時の衝撃は今でも覚えている。

セミナーを受ける前はなんとなく自費の説明の仕方かな。と思っていた自分が恥ずかしくなるようなセミナーの内容で、TC はこれからの歯科医療に絶対なくてはならない存在だと確信した。

最も衝撃だったのが、生涯診断、生涯カウンセリングをして患者様にとってのベストプランを提示する。

私はこれまで歯科衛生士として生涯を通して患者様が困らないようにするためには？と考えたことがあったのだろうか。患者様が本当に望む医療提供ができていなかったのでは…それからは、患者様全員のカウンセリングができるよう医院作りをし、ユニットの台数も3台から7台に増え自費の件数も右肩上がりになっていった。

カウンセリングをしていると、「こんなに丁寧な説明を受けたことは初めて。」「こんなに話を聞いてもらったのは初めて。」「池田さんありがとう。」と感謝される日々。

そう。ここで私は変な自信がついてしまうのである。

家庭の事情で久留米へと転居し、開業二年目のかわの歯科口腔クリニックに就職した。医院作りに私も何か貢献できないものかとカウンセリングの導入を提案した。

はじめは前医院と同じように、患者様に一番合った治療方法を自信たっぷりに説明し、それなりに売り上げに貢献できるようになってきた。

が、久留米ではなかなか自分の思うような結果が出せない。自費治療や、インプラントを選んで貰えなかった…と落胆するようになり自分のカウンセリングを思い返してみた。

単に口腔内の現状を詳しく説明し、保険治療と自費治療の違いを伝えて、自費を選んでもらうよう努力をしているだけで、患者様の背景や思いに耳を傾けていなかった。いわゆる契約が目標になっているカウンセリングをしてしまっていたのだ。

自分が目指す TC とはかけ離れたことをやっていたのだ。

そんなある日、院長から TC マスターカレッジを受講してみないか。と声をかけてもらった。

もちろん、大変な試験があることは知っていた。プレッシャーに弱い私にできるのか？色々なことが頭に浮かんだが、患者様にとっての本当の意味での生涯カウンセリングというものを知りたい！本物のカリスマ TC になりたい！

そう思いその日のうちに受講する意思を伝えた。

そして、その翌日父が亡くなった。

死因は脳梗塞だった。約5か月入院していた。コロナの関係で実家がある長崎の島原には一

度もお見舞いにも行けず非常に急な別れになってしまった。

亡くなる一週間前に父から連絡があり、「義歯の鉤歯が痛くて食事ができない。退院したらインプラントを入れて食べたい！」

厳格な父が私に一生懸命すぎる思いで言っていたのが耳に残っており、思い出すと今でも涙が出てくる。

脳梗塞の影響もあるが、食事ができなく相当つらい思いをしていたのだなと思ったのは変わり果てた父の亡骸を目の当たりにした時だった。

【TC スクールを受講して今後の私になにができるか・理想の TC 像とは】

TC スクールを受講して今後の私になにができるかと考えたとき、

私がカウンセリングをする全ての患者様には、父のような後悔をしてほしくない。

食べ物をおいしく食べる。話せる。笑える。ごく当たり前を感じている幸せを生涯失ってほしくない。

なによりも歯医者で治療したら治る。痛みがないことが治っているという概念をまず払拭したい。という考えに至った。

そのためには、患者様自身が口腔内の現状を受け入れ、正しい医療情報の提供をし、ご自身で健康に過ごせる治療法を選択して頂くことが重要だと思う。

スクールで教えて頂いた、どれだけ一本の歯が大切なのか、ロススパイラルによる歯牙の喪失、力のコントロールでも歯を喪失することをしっかり理解してもらい治療を選択して頂き予防へと繋げていきたい。

また色々なツールを使いこなし、どれだけ患者様に自分の口腔内の状態がイメージでき、今後起こりうることを想像させることができるか。そして、それに対する不安や悩みを希望に変えることができるかが TC の仕事だと思う。

もちろんこちらの一方通行になってしまわないよう、心を透明にした聴き取り方や、心理学を用いた手法を使いこなし、何よりも運命を感じさせるカウンセリングができるよう心得ておきたい。

そして、スクールで『理想の治療』の開始は決して今でなくてもよい。と教えて頂いた。

受講前の私だと、目の前のことしか考えていなかったので理想の治療を選択されなかったら非常に落ち込み、それで終わりだと思っていた。

患者様がどんな選択肢をされても寄り添い、最後までしっかりサポートできるような TC になりたい。

そして、私がかわの歯科口腔クリニックの TC として確立したものを作り、他のスタッフが私も TC になりたい！と思ってもらえるように先陣を切って頑張りたい。

初日の鈴木先生の言葉に『疾患を治すことを強要するより健康であることの欲求を高めるのが私たちの務めだ。』と最も大切なことを教えて頂いた。

本当の健口から健康を手に入れ、そして健幸な人生を歩んで欲しい。
これを満たすことができるのが私の理想の TC 像で、TC として最も重要な目標でもある。

【日本の歯科医療における TC の役割】

政府は経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）案で、国民に毎年の歯科健診を義務付ける「国民皆歯科健診」制度の検討を明記した。国民皆歯科健診を義務化する主な理由としては、「健康の増進」と「健康寿命の延伸」だ。加えて医療費の抑制も期待されている。

私はこの法案を聞いた時、国をあげて口腔内の疾患が全身疾患に関係していることを呼び掛けているのだと思った。

8020運動の達成率が上がってきていることはスクールでも学んだが、現状の定期健診の受診率は2016年で52.9%。だが、定期受診で予防を受けられている人はわずか約6%しかいないのも現実なのだ。

日本は国民皆保険制度により、痛くなったら歯医者で治してもらえる。という間違った認識が根付いてしまっているため、説明もなく歯を削られ、ロススパイラルが起こっていることさえも知らない。何も知らないまま歯がどんどん喪失しいきて、健康までも害している。

これが日本人の運命なのだ…ということを変えていく！

その力があるのが TC であり、TC の役割ではないだろうか。

歯科検診の義務化が実現すれば、何も知らない患者様はそこで出会ったカリスマ TC によって正しい情報と知識を身につけ、さらに予防への関心が高まり健康寿命も延びる。私が理想とする歯科医療がそこにはある。なんて素晴らしいことだ！

そのためには、歯科医療全体で TC の認知が必要であり、TC の普及が必要不可欠だと思う。また私自身も患者様のデンタル IQ を高め、生涯診断、生涯カウンセリングの重要性をしっかり伝えていきたい。

そして、健口から健幸へと導ける TC として活躍していきたい。